薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０２０年
６月１０日
第９３号

コガネバナ（シソ科）

第二圃場で、いかにもシソ科分かると、一方向に向いた紫色の唇形花が見られます。花の美しさから、鑑賞用としても栽培され、漢字では「黄金花」と書きます。原産地は中国北部からシベリアで多年草です。日本には先に生薬が輸入され、江戸時代中頃に栽培され始めました。薬用部位は根で、乾燥させたものを生薬、黄芩（オウゴン）とします。コガネバナの和名も生薬名も、この植物の根が黄色いことに由来します。漢方では、清熱燥湿薬として、黄連解毒湯、三黄瀉心湯、小柴胡湯、大柴胡湯をはじめ、多くの処方に配合される重要な生薬で、消炎、解熱、健胃、整腸、止瀉などの作用があります。

アメリカキササゲの花も、
咲いていますよ！！

アマ（アマ科）

同じく第二圃場では、やや艶のある緑色の果実が膨らみ始めています。漢字で「亜麻」と書きます。コーカサス地方から中東原産の１年草です。茎から繊維を、種子から油を採るため栽培されます。栽培の歴史は古く、古代エジプト時代からのようです。日本には江戸時代に中国より渡来し、薬用の亜麻仁油を採るために栽培されました。灌腸などに利用されたようですが、今はこの目的では使いません。食用の他、インク・塗料や石鹸の原料として使われます。亜麻仁油にはω３系のリノレン酸が豊富に含まれることから、生活習慣病やアレルギー症状の緩和を目的とした健康食品としても使用されています。アマから採れる繊維は、JIS規格では「麻」の名で流通しますが、大麻の原料となるアサの栽培制限のための代用品としてです。ちなみに、亜麻色（■）とは、アマの花の色ではなく、繊維の色のほうで、金髪の形容に使用されています。

今、こんな草木が楽しめます！！